

## 「徳島 木のおもちゃ美術館（仮称）」基本構想（案）について

### 1 基本的な考え方

#### ①基本理念

「徳島ならではの」木育の「中核拠点」として以下の観点を踏まえ整備する。

- ▶ 赤ちゃんから高齢者まで全世代が徳島の木を「まるごと体感」
- ▶ 「川上から川下の連携」をキーワードとした幅広い「木づかい」の発信拠点
- ▶ 県内の木育関連施設とのネットワーク化や全国姉妹美術館との連携

#### ②基本コンセプト

「集い」、「体験」、「学び」、「遊び」、「にぎわい発信」の5つの空間が融合する施設

### 2 施設整備内容

#### ①整備場所

「あすたむらんど徳島・四季彩館」

立地条件を活かし、周辺施設との相乗効果の創出や近隣県・関西圏からも集客

#### ②施設の内容（主な整備空間）

県産材をふんだんに使用し、特色ある空間を整備

##### 【赤ちゃん木育広場】（集い・遊び）

～赤ちゃんとその家族で木に親しむ心を育む空間～

- ・「木球プール」や「木のトンネル」などを配置

##### 【ごっこフォレスト】（体験・にぎわい発信）

～様々な体験を通じて木の良さを実感する空間～

- ・木材の生産から加工、利用に至る流れを遊びながら体験
- ・VR、AR等を活用した木の利用方法や林業・住空間等を体験
- ・徳島の主要な農林水産物（すだち、なると金時、鳴門鯛、しいたけ等）を象った木のおもちゃの収穫体験

##### 【おもちゃのもり】（学び・遊び）

～高い天井を広大な森に見立てピクニック気分で散策できる空間～

- ・おもちゃの入った「遊山箱」を持って「おもちゃのもり」を巡回

##### 【木育こうぼう】（体験）

～「モノ」が生まれる楽しさを体験する空間～

- ・糸鋸等を設置し、家族でおもちゃの手づくり体験

##### 【企画展示のもり】（学び・にぎわい発信）

～林業・木材産業の歴史や郷土玩具、伝統工芸など木の文化や伝統を学ぶ空間～

##### 【ミュージアムショップ】（遊び・にぎわい発信）

～木のおもちゃの販売に加え、県産材の情報を発信する空間～

- ・「木のガチャガチャ」の設置や、県内事業者のおもちゃ・木製品の発表の場

- \* 四季彩館に隣接する「くつろぎ館」（食堂）も木質化し、長時間滞在できるゾーンとする。

### 3 運営体制

#### ①運営方針

赤ちゃんからお年寄りまで全世代の方々が集う施設として、安全管理面はもとより、「遊び」、「体験」、「学び」を通じて、来館者に楽しさ・喜び・木の良さを感じてもらい、共感や信頼、そして豊かな感性を創出できる運営を行う。

#### ②運営方法

- ・ 運営にあたっては、木育はもとより、子育てや福祉、経営等の様々な知識や経験、ノウハウが必要となることから、民間事業者が有する知識やノウハウを活用し、県民へのサービスの質の向上を図ることができる「指定管理者制度」を導入する。
- ・ 良質な展示・サービスを提供するため、当館は「有料施設」とする。

#### ③スタッフ

- ・ 「木育インストラクター」の資格を有する常駐スタッフと、「おもちゃ学芸員」（専門ボランティアスタッフ）を配置
- ・ おもちゃ学芸員は養成プログラムに基づき150人養成予定

#### ④関係機関との連携・協働

- ・ 「とくしま木づかい県民会議」に参画する団体等との連携
- ・ シルバー大学校や県内の大学・高校との連携
- ・ 各施設とのネットワーク連携  
「すぎの子木育広場」、「サテライト拠点」（ウッドスタート宣言市町村）、  
「全国の姉妹美術館」

#### ⑤集客戦略

- ・ 関係団体と連携したHP、SNS等での情報発信や、各種イベントの企画
- ・ 施設への参画を促すため、「一口館長制度」や「クラウドファンディング」を導入

### 4 整備スケジュール

令和3年度末のオープンに向け、次のスケジュールで整備

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
施設整備	基本構想	基本設計・実施設計	施工
木のおもちゃ		設計・購入計画	製作・購入
おもちゃ学芸員		プログラム策定	養成

### 5 今後のスケジュール

令和2年2月議会  
3月末

基本構想（案）の報告  
基本構想の策定

